

三平代表コラムNO. 21

毎年のことながら梅雨の時期は憂鬱であり、時折からっと晴れた日は、ことのほか気持ちの良いものである。

この時期に九州の小倉、長野の上田と地方に仕事で行く機会があったが、運良く天候に恵まれ、東の間ではあるが、ホテルの周辺の散策、名所・旧跡巡りを楽しむことができた。

小倉は歴史もあり、炭鉱をはじめ商業都市として栄えた地として有名であるが、小倉駅周辺の賑わい、地元デパートの買い物客の様子は、さながら東京の老舗デパートに劣らない富裕層の多さに驚くばかりである。観光、ビジネスの中心地は博多に移ってはいるが、奥深さとともに、人々の気高さを感じる町である。最盛期に比べれば縮小されているとはいえ、製鉄所のもうもうと立ち上る煙は小倉のシンボルである。

小倉から車で幹線道路を行くと、戸畑、八幡、折尾まで道路沿いに広がる風景には、この鉄鋼産業を中心とした関連産業が延々と続いている。これらの企業が北九州の経済を今なお牽引しているようすが実感できた。

上田はNHKの大河ドラマ「真田丸」の影響で、大変な賑わいを見せており、地元の観光関連企業も予想を上回る観光客にうれしい悲鳴を上げているようだ。真田真幸が築城して400有余年の上田城、その隣に大河ドラマ館がある。土曜日の朝早い時間(9時30分頃)、すでに多くの団体客が列をなしており、大河ドラマの影響の大きさを物語っていた。叶う事ならば、ドラマがいつまでも続いて欲しいと願いたいところであろう。

一方で製造業が陰りを見せてきており、金属加工産業、金型成型産業等の下請け企業では、パート従業員の雇止めを検討している中小・零細企業もあるとのことである。そのような状況下、今回のイギリスのEU離脱の影響は地方経済のみならず、日本経済にどう影響してくるのか大いに懸念されるところである。

いずれにしても、天候、経済ともに、一日も早く、憂鬱な曇り空ではなく、晴れ渡った青空を仰ぎたいと思う今日この頃である。